

かねざわ 第55号

平成27(2015)年11月

- ・新規連載開始
「寺社を巡る会」活動記録 (P-15)
- ・会員の投稿
「ある秋の思いだすことなど」 渡邊 紀一 (P-13)



次

学習会

2 第4回 「東の正倉院 金沢文庫」を歩く

5 第5回 「中先代の乱と鎌倉・金沢」

8 第6回 「称名寺を中心に」

探訪実行委員会

会員の投稿

13 「ある秋の思いだすことなど」

渡邊 紀一

会員の動静

14 熊谷哲氏「称名寺と金沢北条氏」

と題して講演

山腰 策次郎

分科会からの便り

15 「寺社を巡る会」活動記録 H27 年度第1～5回

20 「懐かしの映画を観る会」鑑賞録 No16

佐藤 晃

24 「浮雲俳句会」抄録 No31

北野 清市

27 「ふれあいの道歩こう会」実施概要 No11

小俣 悦男

29 「安政期の三大地震とロシアの日本近海」

真田 雅行

32 「パソコン何でも相談室」【5】

林 洋

行事予定

34 12月～2月



金沢区生涯学習“わ”の会

zawa-wanokai.in.coocan.jp/

inazawa.wanokai@gmail.com

第4回 「東の正倉院 金沢文庫」を歩く

開催日：平成27年8月8日（土）

9：30～10：50

会 場：県立金沢文庫地下会議室

講 師：県立金沢文庫主任学芸員

道津 綾乃 氏



講師：道津 綾乃 氏

【概要】

毎年夏に金沢文庫の企画展に合わせて講義を聞いた後展示を見るという会である。今回も重要文化財を含む貴重な文物が展示されたが、道津氏の話は金沢文庫の草創に関わる興味深いものであった。

金沢文庫については『かねざわの歴史事典』に、建治元年（1275）頃に金沢実時が金沢の別荘内に建てた武家文庫とある。しかし鎌倉時代の金沢文庫の姿が描かれた文献はなく、どこに建てられていたかは分からないという。確かに金沢文庫にある重文の『称名寺絵図』（展示は複製で、拡大したものが館内で売られている）にその姿はない。水戸彰考館文庫所蔵の伽藍図には絵図の模写の左に書庫の金沢文庫を付け加えているが、これは想像図だという。

天保時代に出た『江戸名所絵図』には金沢文庫旧社は阿弥陀院の後の畠と記されている。御所の

谷（ごしょのやつ）と書かれた絵は、野良仕事の家族が畠の中にゴザを敷いて食事中で、主人が道端の供を連れた旅の侍と何か話をしている極めてのどかな風景が描かれているだけである。

金沢文庫の所蔵文書では中国の宋から取り寄せた漢籍や仏典が貴重だが、例えば重文の『玉篇』は中国で編纂された辞書である。三代の金沢氏が学問好きであったのは事実だが、何故難しい漢籍などを集めたかという疑問が残る。

道津氏は金沢氏の視線の先は京都だと指摘する。朝廷と同じ知識のレベルを保つために勉強し、会話の間にその話は〇〇に書いてありましたねとさりげなく伝えることで話を進める橋渡しの役目をしたという。企画展のパンフレットに書かれていた「宋から将来された貴重な漢籍や仏典は、金沢北条氏に政争と戦闘が続く激動の時代を生き抜く知識を与えました」という説明が納得できた。

北条氏滅亡後金沢文庫は称名寺が管理したが衰退し、豊臣、徳川、前田などの実力者による蔵書の持ち出しが続いた。何故なら金沢文庫の印がある本を持っていることは武士でも知識があることのステータスとみなされどんどん流出したという。しかし、この印のあるお蔭で貴重な書籍が今も残っているという皮肉な側面もある。

道津氏は金沢文庫の印の押された本の真贋を見極めるのも学芸員の仕事のひとつだと明かされたが、残念ながら見分け方はヒミツだと言う。また、今

年金沢文庫の印がある書籍が古本屋から売り出されたと言う。その値段は何と8,000万とかで、金沢文庫本がいかにかに値打ちのあるものであるかを証明していると言えよう。

午後からは展示をじっくり見たが、鎌倉時代に出来た金沢文庫の建物は消滅したとはいえ、700年以上経った今もその所蔵本が見られるというのは凄いことであり、文化面での金沢氏三代の底力を実感した次第である。(伊達 記)

1. アンケート結果

出席者		一般会員	委員	計(出席率%)	ビジター	計	アンケート(提出率%)
	男	64	8	72(67.9)	0	72	
女	6	0	6(31.5)	0	6		
計	70	8	78(62.4)	0	78		

2. 講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった
29名	26名	3名	0名

- ・歯切れのよい言葉で聞きやすく、また分かりやすく話してくれた(11)
- ・「春秋」「足利学校」「金沢文庫の印」の説明が良かった(4)
- ・金沢北条氏の素顔が、解かったような気がした(1)
- ・企画展示物を拝見する前だから、より展示物の理解を深められる(2)
- ・いままでにない講座で大変良かった(1)
- ・金沢文庫本について、現在の状態とその経緯など面白い話が聞けた(10)
- ・金沢北条氏が、宋からの漢籍は京都を視座に置いて勉強したなどの背景が面白かった(6)
- ・図録がないのに、レジュメが簡単すぎた(1)
- ・やや難解であったが、大変興味深く拝聴した(1)
- ・称名寺文庫と金沢文庫の説明(2)
- ・女性の感性が良かった(1)
- ・プロジェクターによる画像があるとよかった(1)
- ・散漫な感じで、よくわからなかった(1)

3. 道津講師に希望する講演テーマについて

- テーマはなんでもいいですから、また講演お願いします(2)
- 「春秋」を解説してほしい(1)
- 仏教史や中世の天台宗、宗派の違いなどについて(7)
- 鎮西金沢氏の詳細について(1)
- 研究されている得意部門について(1)
- 今回講義の続き(1)
- 新しい展示に合わせた講演(1)

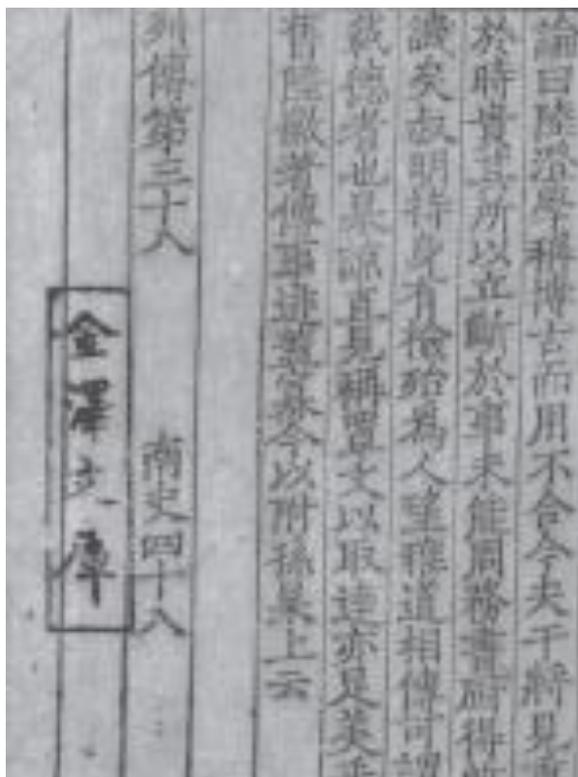
4. 学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	チェックなし
19名	24名	0名	9名

- 司会の進行等、言語がはっきりしていてよい(1)
- 種々の内容にわたり、よかった(1)
- マジックくらいは、“わ”の会で準備したらいいのでは(1)
- 要領よく運営されていた(2)
- 司会の瀬川委員の進行がよかった(2)
- 講師は「持ち時間」を知らされていないかった？ 運営に問題あり(1)

5. “わ”の会について

- 今後ともどうぞよろしく(入会して間もありませんので)(1)



第5回「中先代の乱と鎌倉・金沢」

開催日：平成27年9月12日（土）

9：30～12：00

会 場：金沢地区センター大会議室

講 師：日本史史料研究会研究員

鈴木 由美 氏



講師：鈴木 由美 氏

【概要】

今回の学習会では久しぶりに女性が講師を務めました。出席者は90名を超え大変盛況でした。講師の鈴木由美さんは、学習会の講師としてお馴染みの細川先生と共に「日本史史料研究会」において中世代の内乱を中心に研鑽を積まれています。今回の講演には師匠格である細川先生も出席されました。

この乱は鎌倉幕府最後の得宗北条高時の次男時行が建武2年（1335）に建武政権に対して起こした反乱である。タイトルの中先代とは、鎌倉幕府の執権を務めた北条氏を先代、室町幕府を開いた足利氏を当代と呼ぶのに対し、北条時行の乱がその中間であり、短い期間ではあるが一時期鎌倉を掌握したことから中先代といわれる。

この乱の発端は、後醍醐天皇に不満を持つ西園寺公宗等が、高時の弟泰家を中心とした旧幕府勢力を結集し、建武政権を倒し、持明院統（北朝）

政権の樹立を目指したことによる。公宗等の謀反の計画は発覚し捕えられるが、この計画と同時に蜂起する予定であった、諏訪頼重等に保護されていた時行が建武2年7月に信濃で、北条一族である名越時廉等が北陸で次々と蜂起したのである。

時行軍は鎌倉を目指し順調に進軍を重ね、7月23日には当時鎌倉を治めていた足利尊氏の弟直義軍を撃破し敗走させ、24日に鎌倉を占拠した。一方足利軍は尊氏が直義軍救援のため8月2日に京都を出発し、こちらも順調に進軍し19日には辻堂・片瀬原の戦いで時行軍を壊滅させ同日に鎌倉に入る。この結果、時行が鎌倉を占拠したのは僅か20日余りであった。

時行の反乱はあっけなく終わったが、この乱がもたらした最大の意義は、尊氏が建武政権から離反したことにある。結果として尊氏を中心とした

武家政権の樹立を促すことになり、南北両朝の分裂・室町政権の成立へと至るのである。

時行はその後20年近く生き延び、大覚寺統(南朝)に味方し鎌倉を攻めたりするがいずれも敗北し、1353年5月20日に捕われて龍ノ口刑場で処刑され、30歳前後といわれる波乱に満ちた短い一生を閉じた。

この乱と関連する金沢でのエピソードとしては、称名寺三世の長老湛睿が著した「華嚴経演義抄見聞集」の奥書に建武2年と併記して正慶4年を使用していることが挙げられる。正慶の年号は

鎌倉幕府滅亡時の光厳天皇が用いていた年号であり、正慶4年はここ以外では使用されていない。湛睿が敢えてこの年号を用いたのは、鎌倉幕府(北条氏)に対する深い思い入れの表れと推測される。

今回の講演は、次年度の学習会(6、7月)で計画されている細川先生の南北朝に関する講演のプロローグでもあり、次回の講演も大いに期待されます。(山腰 記)

1. アンケート結果

出席者		一般会員	委員	計(出席率%)	ビジター	計	アンケート(提出率%)
	男	69	8	77(72.6)	0	77	
	女	13	0	13(68.4)	0	13	
計		82	8	90(72.0)	0	90	49(54.4)

2. 講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった
18名	24名	4名	3名

- 南北朝と中先代の関連、流れが分かった(2)
- 20日間の鎌倉占拠、北条時行の「中先代」と呼ばれる理由を理解した(9)
- 聞きなれない「中先代」と「乱」をおぼろげながら学べた(6)
- 湛睿とのつながりは理解したが、「金沢」との結びつきにはちょっと無理があった(1)
- 資料も見やすく、図もあり豊富で分かりやすく大変参考になった(3)
- 建武2年の中先代の乱は以前から知りたいテーマで、説明が分かりやすく興味深かった(8)
- 中先代について初めて知り、鎌倉時代のエピソードを発見、面白かった(5)
- 時行が子供であったとは(1)
- 良い題材でよかったが、不慣れなためか話が分かりづらかった(6)
- 資料を追うのが忙しかった。大筋をはっきりさせて資料を見たら分かりやすい(3)
- レジューメ通りで良かった(1)
- 前半と後半、視点を変えた点がよかった(1)
- よく調査、研究されているが、知識を発表するにはやや表現が十分でない(1)

- ・一生懸命話をされていて好感が持てた（3）
- ・大変貴重な講演会。若い研究者に発表の機会のチャンスを与えることは評価できる（2）
- ・実史料に基づいてのかなり上級の内容を含んでいたため、復習が必要と思った（1）
- ・古文書の正慶4年に対する思い入れはわかるが、主題に絞ってほしかった（1）
- ・「中先代の乱」の概要がつかめないまま、細部の説明が多く繋がりが分かりにくかった（1）
- ・地図（日付入り）を工夫して何を説明するのかが分かると良かった（1）
- ・基礎知識がないと、話が前後飛び飛びになって理解が難しかった（1）
- ・史料の枝葉末節の説明に終始したのは不可。釜利谷の東光禅寺が金沢では繋がりがあある（1）
- ・称名寺がこの乱でどのような影響を受けたか説明すべき（1）

3. 鈴木講師に希望する講演テーマについて

- ・金沢合戦について（1）
- ・「承久の乱～中先代～建武中興～南北朝～応仁の乱」辺りを2～3回にわけて（1）
- ・「鎌倉＝武士シンボル」について（1）
- ・時行、泰家の支持グループについて（1）
- ・中世の魅力的な話題を。内乱など（2）
- ・今回講義の続き、南北朝時代について（1）
- ・鎌倉幕府滅亡について（1）
- ・なんでもいいので講演を聞きたい（1）

4. 学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	チェックなし
16名	22名	5名	6名

- ・新鮮な講師で一生懸命に講義するのが伝わった。再度登壇をお願いしたい（1）
- ・受付の流れがよい（1）
- ・マイクの音量、ハウリングに工夫されるとよい（1）
- ・次年度の申込みもあり、慌ただしかった（1）
- ・最近、受付時のもたつきが多い。分担の明確化で手際よくしてほしい（1）
- ・毎回、講演中、後方での打ち合わせや雑談が耳障り（1）

5. “わ”の会について

- ・携帯の発信音 OFF の徹底（1）
- ・運営感謝（1）
- ・次年度のテーマが開示。期待しています（1）
- ・来年度、家内も入会させたい（1）
- ・五味文彦氏に講演依頼してほしい。「うみねこ」は2回（？）講演したという情報がある（1）

第6回 「称名寺を中心に」

探訪実行委員会



開催日：2015年10月9日（金曜日）

ガイド：“わ”の会 探訪実行委員会

コース：赤門⇒参道⇒光明院⇒仁王門⇒金沢文庫古址碑・忠魂碑⇒称名寺庭園⇒金堂⇒梵鐘・石橋氏供養塔⇒釈迦堂⇒金沢実時墓⇒八角堂⇒百観音⇒称名寺の楷樹⇒金堂（法話）⇒金沢町町内会館（昼食）⇒金沢顕時・貞顕五輪塔⇒北条実時胸像⇒美女石⇒青葉の楓⇒大宝院⇒海岸尼寺跡（大橋新太郎別荘跡）⇒寺前の水難者供養塔⇒薬王寺（法話）⇒解散

配布資料：探訪用レジュメ（9頁）、称名寺絵図（カラー）、探訪MAP

概要

今年の探訪は、昨年から学習会において金沢北条氏について数回学んできたことに因んで「称名寺を中心に」をテーマとしました。称名寺は私達にとって最もなじみ深いお寺であり、皆さんは既にいろいろな知識をお持ちのことと思います。今回は、これまで学習会等で学んできた成果を踏まえて、称名寺を今一度見直すことで何か新しい発

見が得られるだろうと思い企画しました。

当日は、最も晴れる確率の高い特異日のおりで、今年の探訪（10月10日）に引き続き、晴天・秋晴れの探訪日和となりました。

今回の探訪は、1～3班は全コースを巡る班、4班は称名寺裏山に登らないコースとした4班編成とし、ガイド役として1班は金久保氏、2班

は白井氏、3班は内田（孝）氏、4班は熊谷氏が受け持ち、各班に1～2名の実行委員を配置する体制で実施しました。

ガイドから今日のコースの概要と注意事項の説明があり、予定時刻より若干早い9：00より順次探訪のスタートが切られました。

先ず称名寺の顔でもある赤門（総門）からです。周辺施設も含めて説明を受けた後、参道を抜け、称名寺の塔頭である光明院へと向かいました。この光明院表門は、何の変哲もないような門ですが移築されたものを除けば横浜市で最も古い（1665年）建造物であることには少々驚きました。仁王門、称名寺庭園、鐘楼等の説明を受けた後、いよいよ裏山へと入りました。実時の墓を経由して八角堂までの登りは、ほぼ緑のトンネルで大変気持ちの良い歩きでした。皆さんの会話はずんでいたようです。八角堂、百観音は実時六百六十年忌の記念事業として大橋新太郎の寄進によって造られたもので、百観音は当初金沢三山の周遊コースに奉配されていましたが、宅地開発によって破壊される恐れがあったため現在の位置に集められました。「元の位置への復元が可能であれば、裏山の周遊コースは今より遥かに充実したものになるだろう」と、ふと思ってしまいました。この探訪で最大の難所と思われた八角堂からの下り坂は、我々の心配をよそに皆さん難なく下りられたようです。

午前最後の訪問場所である称名寺金堂においては、ご住職から約30分の法話をいただきました。称名寺の起源から現在に至るまでの変遷・調査・修復などについて掻い摘んだ説明を受けた後、本尊である弥勒菩薩立像やその脇侍等について、実物を見ながらいろいろな角度からのお話は大変興味深いものでした。その中で菩薩の蓮台は蓮のつぼみが如来になると満開になるというお話には目から鱗でした。法話後は、普段は見ることのできない貴重な仏像等を拝観することができました。主なものは、前出の弥勒菩薩立像（重文）、板絵着色弥勒来迎図・弥勒浄土図（重文）、海中

出現観音（別名：長浜観音）等です。

金沢町町内会館で昼食をとり一休みした後、13：00頃から午後の探訪を順次スタートしました。

先ず頭時・貞頭五輪塔を訪れ、実時胸像・美女石・青葉の楓等の説明を受けた後、大宝院に向かいました。称名寺の塔頭であった大宝院の跡地は、全く管理されておらず荒れ放題で、今にも朽ちそうな建物が1棟残されていました。寂しさを感じたのは私だけではなかったようです。

次の海岸尼寺跡は、今は小さい公園となっており、昔の面影は全くありません。ここに大橋新太郎記念碑が建立されていますが、1班では、この碑の建立に尽力された小俣氏にこの碑にまつわるエピソードなどを交えて説明して頂きました。特に夫人の須磨子さんのお話、金色夜叉にまつわる裏話などで大いに盛り上がりました。

最後の訪問場所である薬王寺では、ご住職から約45分の法話をいただきました。この寺の起こりは、鎌倉時代に源範頼の別荘があった所で、範頼が亡くなった後、ここに持仏堂が建立されたことに始まるとのことでした。薬王寺の山号は三療山と云いますが、この三療とは、人間には三つの良くないことがあり、この三つを癒すのがその意味するところで、一つは体の病、二つ目が口の病（女性に多いとか）、三つ目が心の病であるそうです。薬王寺では、毎朝6時と毎夕6時に今では珍しくなった鐘を撞いて時を報せていますが、朝はご住職が、夕は副住職が、二人の都合が悪い時は近くの酒屋さんをお願いし撞いているとのこと。なぜ撞いているのかとの質問には、人間は生きていくために過去も含め多くの人たちからの恩によって生かされている。鐘の音を聞くことによってその恩を思いだし、感謝の心を持ってほしいからだそうです。ご住職の法話を聞いて、皆さん日頃の自身の行いを反省してか少し神秘的な雰囲気となりました。

予定通り15：00に薬王寺境内において今井代表、江口探訪実行委員長による探訪終了の挨拶

があり、探訪は無事終了しました。なお、終了間際に行われたアンケートの提出では、探訪の性質上か少しバタバタしましたが、今後の課題とします。

今回の探訪では、熊谷氏より金沢町町内会館を紹介して頂き、昼食場所を確保できたこと、またガイド用に貴重な写真や資料を提供して頂いたことに感謝申し上げます。

探訪の成否はガイドの力量に大きく左右されますが、探訪前日に下見し最終確認したガイドもいたと聞いております。この様なガイドの努力に

は頭の下がる思いです。ガイドの皆さんご苦労様でした。

探訪途中で参加者が体調を崩されるアクシデントがありましたが、皆さんの迅速かつ適切な対応のおかげで大事に至らず、また皆さんの冷静な行動とご協力によって探訪を無事遂行できたことにも感謝申し上げます。

来年の探訪は「杉田界限」（仮称）を予定しております。これから計画を進めていく段階ですが、少しでも有意義な探訪にしたいと考えております。今後とも皆さんのご協力をお願いします。

（山腰 記）



八角堂



仁王門



金堂



ガイド説明



弥勒菩薩立像（重文）



海中出現観世音菩薩



大橋新太郎別荘跡でガイド説明を聞く



薬王寺 住職の法話に感銘

1. アンケート結果

出席者		一般会員	委員	計（出席率%）	ビジター	計	アンケート（提出率%）
	男	46	7	53(50.0)	0	53	
	女	9	0	9(47.3)	0	9	
計		55	7	62(49.2)	0	62	35(63.6)

2. 講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった
27名	6名	1名	0名

・説明だけでなく、ウォーキングも楽しめ、両寺住職の良い法話に感銘した（14）

- ・ふだん拝見できない仏殿が自由に見られ、撮影可で良かった(2)
- ・ガイドの方がよく勉強されていて大変よく分かりました(2)
- ・久しぶりの称名寺で良かった(1)
- ・世話人の皆さま、事前の準備が実り、ご苦労さまでした(2)

3. 探訪の希望テーマについて

- ・戦中（戦後）遺跡をめぐる(1)
- ・六浦、釜利谷を中心とした中世を考える(1)
- ・寺社巡り(1)
- ・近い所でも掘り下げると良い(1)
- ・金沢藩（米倉家）(1)

4. 学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	チェックなし
23名	6名	0名	6名

- ・称名寺や近辺のことを丁寧にかがえたこと(1)
- ・称名寺の仏像を拝観させていただき感激です(1)
- ・薬師寺で法話が聞けたこと(3)
- ・ふたつの法話が為になった(1)
- ・入念な準備に頭が下がります(1)
- ・アクシデントで伝令さん、ご苦労さまでした(1)
- ・しっかりした内容で、安心して参加でき、ありがとうございました(3)
- ・スムーズに参加、行動できたのが良かった(3)
- ・ガイドの説明が良かった(2)
- ・山がきつかったが、適当な距離とコースで歩きやすかった(2)
- ・今一度、近在の見直しが出来て良かった(1)
- ・一致協力の態勢が結実していました(1)
- ・遅れて申し訳ありません(HPで9:30からと見間違えました)(1)
- ・負傷者への対応が良かった(1)
- ・金沢山からの下り道は、手すりがなく苦労しました(1)

5. “わ”の会について

- ・今回の探訪は、話が分かりやすく楽しかった(1)
- ・ありがとうございました(1)
- ・企画が晴らしい、感謝あるのみです(1)

ある秋の思い出すことなど

渡邊 紀一

思い起せば二十年以上も経ってしまった。詳細は忘れかけようとしている。

ある秋の東京の高名な神社の境内の骨董市だった。本殿に続く参道の両脇はどこも人垣が出来、いつもの風景だ。骨董市はいつもだが心なしか晴れがましく見える。別に仕切られているわけではないが一步表に出るとすさまじい都会の喧騒に見舞われる。この神社もそうだ。骨董市は俗界とは異なる独特の雰囲気を持っているように思う。

午後も二時を回れば釣瓶落としは忽ち日差しを柔らかくした。無造作に広げられた筵の上に放り投げられたようなアルバムを優しく照らしていた。長く伸びた人影もだいぶまばらになった。時折、吹く風は冷たく紛れもなく季節のものだった。アルバムは黒の台紙を基調として出来ており、厚めの表紙には白のペンキでぽってりと手書きの文字で“御寫眞帖”と浮き上がっていた。アルバムは職人の手によったと思われる紐綴じの堅牢な作りで風合をもっていた。

アルバムの冒頭は初々しさの残る夫婦と知れた。勿論知る由もない。ごく普通の家族写真だった。それにしても頁が少ないように思えた。骨董市にアルバムは珍しくなかったが手にするのは初めてだった。二人の写真が何葉か続いた。丁寧に「コーナー」で貼られていた。続いて手札大の写真は街の写真館で撮ったと思われる母親に抱かれた赤ちゃんの写真であった。ペン筆の青インクで「お宮参り」のと記載されていた。こどもの成長につれて、「一歳誕生日」「七五三参り」などと書込まれていた。それらの写真の合間に軍服姿の父親と思われる写真が何葉かあった。一人だったり数人であったりもした。戦地から留守家族に宛てられたものなのだろう。父親は我が子の顔を見ずに戦地に赴いたのだろうか。アルバムは子供の誕生を契機に編まれたのだろうかと思った。更にページを繰って行くと場面はがらりとかわり日付と共に「由比ヶ浜にて」とあって女の子と並んで砂浜に立ったものだった。二人とも当時としては珍しかったと思われる水着姿で海原を背にしていた。「箱根大涌

谷」はホテルの一室に母子三人が長椅子に腰かけた写真だった。女の子は人形を抱えて母親に抱かれていた。どれもセピア色に褪色している。更にページを繰ってゆくと着物姿の母親と並んだ二人だけの写真があった。小学校の校門の前だった。少年の顔立ちは子供の頃を過ぎて得意がっているように見えた。「昭和23年4月」と書き込まれていた。私は指を折って確認した。はっとした、少年と同じ年の生まれだったのだ。急に興味がわいた。この年、私は疎開先の日本海を望む母の実家のある小さな漁村の小学校に入学していた。そして二年間をそこに暮らした。何年も見ていないが探せばきっとどこかにある筈の小学校のある日の集合写真を思い出していた。薄く笑った女先生を二十人ほどの生徒が囲んでいた。皆寒そうに顔を強ばらせているのだった。それらの中に混じって怯えたネズミのような顔の私がいる筈である。この頃を思い起こすのだが先生が私を呼ぶ声に記憶がない。同級生と言葉を交わした思い出が浮かばない。先生の名前さえ憶えないのだ。同級生の誰一人として名前を思い出せない。思い出を追えば追うほど、先生も同級生も遠ざかっていくのである。

私には初めて学校に上がった記念すべき学校生活を何一つ思い出せないのである。疎開から引き揚げて川崎に住むようになってから夏休みにこの地に行くことがあっても、また後年、冠婚葬祭に出席の折この地を何度か訪れることがありながらこの頃の思い出につながる同窓生に遭遇することは遂になかった。

いつかその写真を見ながらこの頃のことを話してくれる人が現れる日を密かに願っていたこともあった。この写真の片隅には二宮金次郎像があった。

今、思う。写真の中の先生や生徒たちとは今後とも会うことはないだろうと。それは確信に近いものだ。皆どこにいるのだろうか。皆どこに行ってしまったのだろうか。と思う。目の前にいた人々が忽然と消えてしまったような錯覚に陥った。

アルバムに貼られた最後の写真は境内か、小さな公園のように見えた。柵のない小さな池の向こうに男女がベンチに座っていた。男は襦袢のようなものを身にまとい懐手をしている。女は笑いながら凭れるように安心して男に身体を預けているように見える。仲睦まじいというのだろうか、幸せそうな図柄である。日付も場所も特定できるものは何一つなかった。季節は遅い秋のようだ。落ち葉が足元に散乱している。

アルバムは何故ここにあるのだ。アルバムを直前まで守り続けた人に何が起きたのだろう。写真の人々はどうしたのだろう。少年、少女はどこに行ったのだ、家族に異変が起きたのだ。アルバムを誰も守りきれない異変が起きたのだと思う。

雑踏の中で取り残されたようにこんなことを思っていた。

会員の動静

熊谷哲氏「称名寺と金沢北条氏」と題して講演

山腰 策次郎

表記の講演会は8月26日（水）AM10:00から並木三丁目第二住宅集会所において開催されました。講師は“わ”の会会員の熊谷哲さんが務めました。

主催者である並木三丁目ウォーキングの会は、並木三丁目を中心に活動している「つつじクラブ」（敬老クラブ）を母体に、“いつまでも健康で楽しく”をモットーに設立された会です。会員は40名弱で、年5、6回、神奈川県を中心に活動されているそうです。会は金沢区福祉活動促進補助金を受給しており、区の職員がオブザーバーとして出席されました。

今回の講演は、ウォーキングの会が称名寺をテーマに講習会を開催するにあたって、その知識が豊富な“わ”の会に講演の依頼があったものです。ここで得た知識は9月に予定している称名寺探訪に生かされるとのことです。

講演には会のメンバーを中心に50名ほどの参加があり大変盛況でした。年齢層は“わ”の会と同じようでしたが、女性の割合が圧倒的に高く（75%位）少しうらやましく感じました。

講演は、「つつじクラブ」代表の細川さんの挨拶で始まり、ウォーキングの会代表の平松さん（“わ”の会会員）へと続き、その挨拶で講師の年齢を紹介した際には一瞬どよめきが起こりま

した。会場の雰囲気や和んできたところで熊谷さんの講演となりました。途中5分間の休憩をはさみ約1時間45分の講演でした。

講演は①金沢北条氏について、②称名寺について、③金沢文庫についての内容で行われましたが、称名寺探訪を踏まえ視察のポイントなどにも触れながらの説明でした。尚、出席者には10ページに及ぶ講演会用の資料（熊谷氏作成）が配布されました。

講師の熊谷さんは資料にはほとんど目を落とさず、最後まで立ったままの講演でした。時には豊富な人生経験に基づくエピソードなどを織り交ぜながら、時にはユーモアたっぷりに、そして時には身振り手振りを交えた表情豊かな講演姿勢が、聞き手を惹きつける凄ワザと感服した次第です。

講演後、出席者からは「今までの講演では眠くなったり退屈することが多かったが、今回は最後まで集中して聞くことができた」「大変分かりやすく良い学習になった。次回のウォーキングが楽しみだ」「次回の称名寺探訪は熊谷さんに案内役をお願いしたい」等の感想がありました。みなさん大変満足した様子で、講演会は無事終了しました。

「寺社を巡る会」活動記録 H27年度 第1～5回

第1回 三浦三十三観音巡り（三浦地区）

開催日：平成27年6月4日(木)

参加人数：男性 25名 女性 7名 合計 32名

コース：京急三崎口駅（バス）～ 城ヶ島大橋バス停 ～ 大椿寺（四番）～ 本瑞寺 ～ 光念寺 ～ 海南神社 ～ うらり（昼食）～ 最福寺 ～ 音岸寺（一番）～ 見桃寺（二番）～ 三崎港バス停（バス）～ 京急三崎口駅（解散）

三崎口駅前で資料配布。初めての美しいカラー印刷に皆驚き喜んだ。特に案内地図が鮮明で、探訪の道程が良く分かった。吉田代表、よこすかシティガイド協会の挨拶後、バスに乗車。城ヶ島大橋バス停で下車、橋の中央近くまで歩き、橋の構造、建造の歴史、又、三崎の町を見下ろしながら関東大震災によって1.2mの隆起があったこと、冬の西風で大火事が頻発したこと等の説明を受けた。

最初の探訪寺社は『椿の御所』と称される四番札所大椿寺。三崎には源頼朝が椿・桜・桃を植樹して別荘を営んだことにより花の名前を冠した御所が三ヶ寺ある。大椿寺はその名の如く椿が植樹され、頼朝の側室が住まっていた。本尊は秘仏の十一面観音坐像。本堂入口でお前立の観音立像を拝観した。次の探訪寺社は『桜の御所』と称される本瑞寺。開基は三浦荒次郎義意。頼朝が桜を植えさせた時代と開山の時期(1509年)は異なるが、今や面影も無い桜が三浦一族への回向の様にも思われた。次の探訪は浄土宗光念寺。優しい面立ちの本尊阿弥陀如来像を

遠く拝した。次は三浦半島の総鎮守で、三浦一族の鎮守社でもある海南神社を訪れた。広くもない境内地には多くの境内社が建立されていた。頼朝お手植えと言われる大銀杏は今まで見たことも無いほどの巨木で、将に度胆を抜かれるばかりであった。

昼食後最初に訪れた寺社は親鸞上人の教化により天台宗から浄土真宗に改宗した最福寺。天文元年(1532)戦乱の鎌倉から三崎西の浜に移転、更に元禄10年(1697)に御船手奉行向井家の屋敷跡の現在地に移転した。次は一番札所音岸寺。無人の一番札所に寂しい思いが湧いたのは私だけでは無かったようで、「一番札所なのに。」という声が多く聞かれた。最後は『桃の御所』と称される見桃寺。この寺も無住寺。開基は徳川家御船手奉行向井正綱。境内墓地には向井将監一族の立派な供養塔が建っていた。この後バスで三崎口に戻り解散。お天気に恵まれ、三浦の心地良い風を感じながらの楽しい探訪であった。

(飯富 記)



大椿寺（第四番札所 臨濟宗妙心寺）



海南神社・拝殿（正面）

第2回 三浦三十三観音巡り（三浦南部地区）

開催日：平成27年7月2日(木)

参加人数：男性 24名 女性 6名 合計 30名

コース：金田バス停～第八番清伝寺～第七番福寿寺～福泉寺～松輪会館(昼食)～地藏堂～第六番観音堂～松輪海岸バス停(バス)～大乘バス停～第五番海応寺～大乘バス停(バス)～三浦海岸駅(解散)

三浦三十三観音とその周辺を巡るコースは、第1回(平成26年6月5日)スタートして以来、三浦、横須賀、逗子、葉山の全札所を廻り、本日の12回目にして結願を迎える事が出来た。

本日訪れた8、7、6、5番札所、全てが臨済宗の寺院である。

最初に訪れた清伝寺は、橙色の明るい瓦葺き屋根でした。珍しい、ねこ供養地藏塔があり、川淵で鱸が釣れた「すずの川」や河童の詫証文伝説が残っている。次は福寿寺。ここは三浦義村開基のお寺である。三浦氏との関係が深いお寺が三浦半島には多くある。三浦義村の墓は福寿寺からも、ほど近い所にあった。本堂内には「勝軍地藏菩薩」が祀られ、義村が使用したと云われる「鞍、鎧」

をガラス越しに拝見する。松輪会館で昼食。松輪港を一望できる小高い丘の中腹の観音堂を開扉して頂き、聖観音を拝観する事ができた。最後の訪問となった海応寺が三浦三十三観音札所巡りの結願寺となった。やや内陸部にある海応寺への道程には、一面のスイカ畑の緑と標高が高くなるにつれての景色は雨もやの中で最高でした。宮川公園内にある風車2基が良く見えました。予定通り探訪は終わった。

三浦三十三観音と寺社を巡る会との別離を悲しむが如く、降りしきる雨は消え失せる事が無かった。三浦海岸駅でよこすかシティガイド協会と寺社を巡る会との最後のご挨拶で解散した。

(金久保 記)



清伝寺(第八番札所 臨済宗建長寺派)



海応寺(第五番札所 臨済宗円覚寺派)

第3回 DVD鑑賞「百寺巡礼 Ⅸ」

開催日：平成27年8月14日(金)

開催場所：富岡並木地区センター

参加人数：男性 23名 女性 6名 合計 29名



鑑賞したのは五木寛之の「百寺巡礼」



三佛寺 天台宗 鳥取県三朝町
投入堂 (国宝)

DVD鑑賞

「五木寛之・百寺巡礼」 ～ 今回は以下記の6寺を鑑賞した。

勝常寺	福島県河沼郡	真言宗	創建；	810～824年(伝)
白水阿弥陀堂	福島県いわき市	真言宗	創建；	1160年
長勝寺	青森県弘前市	曹洞宗	創建；	1528年
恐山菩提寺	青森県むつ市	曹洞宗	創建；	862年(伝)
大山寺	鳥取県西伯郡	天台宗	創建；	718年
三佛寺	鳥取県東伯郡	天台宗	創建；	849年

前回に続いて、東北地方4寺、鳥取県2寺の計6寺を観賞した。

五木寛之氏の解説は非常に懇切で、参加者にも好評である。

今後ともこの企画を続けていくのが良いと思料する。

(多胡 記)

第4回 鶴見川沿いに点在する古刹と往時の生活を偲ぶ（新羽地区）

開催日：平成27年9月11日(金)

参加人数：男性 26名 女性 4名 合計 30名

コース：新羽駅～西方寺(法話拝聴)～新羽杉山神社～光明寺～北新羽地藏堂(昼食)

～北新羽杉山神社～蓮華寺～間道～善教寺～千石上納米土蔵跡～新羽駅(解散)

平成27年度の探訪は神奈川区いまむかしガイドの会にお世話になる。その第1回は久しぶりの晴天でスタートする。新羽地区は都筑郡に属し、古くから発達した村で考古学的資料は豊富という。鶴見川沿いの村は舟運が盛んで栄えたが、一方洪水との戦いの歴史を持つ。

最初に訪れたのは 安養院 西方寺、建久年間創建の古刹。重要指定文化財たる本堂、鐘楼、山門と今は少ない茅葺屋根が素晴らしい。造りは平等院とそっくりと言われ、欄間の彫刻や板絵の天女の舞い等歴史的な遺産である。本尊は黒本尊といわれる阿弥陀如来坐像、極楽寺から移ってきた経緯など老住職の法話を拝聴、庭先の赤、黄、白の彼岸花も良かった。

次は新羽杉山神社、西方寺持ちの明治はじめからの神社、因みに杉山神社の名は非常に数多く、鶴見川流域だけでも22社の杉山神社がある。続いて、遍照山 光明寺、本尊は大日如来1496年開創。北新羽地藏堂は光明寺の境外堂。念仏の呪力により、悪魔や疫病が退散すると信じられていた時代の地元婦人達により建てら

れたもの。ここの敷地内にある新羽町内会館を借りて、昼食を摂る。

午後の最初は 北新羽杉山神社、室町時代末期大和の国三輪明神の分霊を遷したという。日本一の青銅製の黒大黒様がある。ネズミの狛犬も珍しい。続いて新照山 蓮華寺 新義真言宗の寺院、本尊は大日如来坐像で、胎内に行基作の大日如来を納めるといわれるが、拝観は出来ず。境内にある薬師堂は「眼の薬師」として近郷の人達の信仰を集めている。間道という大石内蔵助が仇討ちのため密かに江戸へ向かった古道を通り、平等山 善教寺に着く。浄土真宗本願寺派、本願寺より「兼帯所(本山直轄寺)」の位を貰い「新羽御坊」となっている本山に次ぐ格の高い寺院である。本尊阿弥陀如来、山門が立派。

最後は千石上納米土蔵跡、2階建茅葺、火災に耐えるため、壁、屋根すべて土に覆われた土蔵を垣間見て、新羽駅に戻る。なお、今回の探訪は、ガイドの会の都合で2班集体制で実施した。

(寺田 記)



光明寺(真言宗) 2階部分が本堂



善教寺の山門(新羽御坊の扁額がある)

第5回 菅田・羽沢の田園に富士塚と野仏を訪ねて(菅田・羽沢地区)

開催日：平成27年10月 1日(木)

参加人数：男性 28名 女性 4名 合計 32名

コース：片倉町駅～双体道祖神～最勝寺・富士塚～菅田神明社～おしゃもじさま～庚申塔～羽沢スポーツ会館(昼食)～富士塚～硯松の碑～羽沢神明社～道祖神～東泉寺～菅田・羽沢農業専用地区～菅田みどりの丘公園～専称寺～片倉町駅

今回は、市の中心部に近いながらも田園の風情を色濃く残す、神奈川区の菅田・羽沢地区の探訪であった。江戸時代から戦後の高度成長期に至るまで田園地帯であったこの地区には、村の安全や繁栄を願った野仏が数多く残っている。今回の探訪中にも石仏や石塔類が多数みられた。

定刻に地下鉄片倉町駅より出発。菅田街道沿いの双体道祖神を経て高野山天台宗の熊野山 最勝寺を訪れた。本尊は薬師如来坐像〈像高 29cm〉、門前に庚申塔と供養塔がまつられていたが、瞠目したのは寺の背後にある区内最大の最勝寺富士塚であった。頂上に大日如来像を安置。毎年6月1日に山開きが行われる由。

続いて神奈川区選定「わが町かながわ50選」の一つ菅田神明社にお参り。祭神は天照大神。明治以前は最勝寺が別当であった。その後畑の中を歩き、供えられている「しゃもじ」で喉を撫でると百日咳が治るといふ、おしゃもじ様と庚申塚をお参りして、11時半過ぎ昼食場所の羽沢スポーツ会館に到着。

午後の出発時はかなりの雨となり、以後雨中の

行進となった。

最初に訪れた羽沢富士塚はこじんまりして手入れも良かった。この塚の保存の為に隣接部道路幅員を半分にし、且つ湾曲させているが、土地の人たちに大事にされていることを示す。その後、西向き鎮座で珍しい羽沢神明社と、太田道灌の小机城攻めに由縁の硯松の碑を経て、広蔵山 成願院 東泉寺に参詣。当山は高野山真言宗 本尊は薬師如来立像〈像高 28cm〉、脇侍は日光菩薩 月光菩薩である。

次は、貨物線羽沢トンネル掘削の残土を利用して造成した約60ヘクタールの菅田・羽沢農業専用地区と、やはり大きな菅田みどりの丘公園を通過して、最終目的地の松澤山 一向院 専称寺に到着。本尊は阿弥陀如来立像〈像高83cm〉脇侍 観音菩薩 勢至菩薩である。境内にある観音堂の如意輪観音菩薩坐像は伝運慶作である。

最後はバスで片倉町駅へ移動し、代表のあいさつと共にガイドさんに感謝し14時30分に散会した。

(山下 記)



最勝寺 (高野山 真言宗)



専称寺 (浄土宗)

「懐かしの映画を観る会」 鑑賞録 NO.16

代表 佐藤 晃

平成27年度第9回鑑賞会

〈鑑賞日：2015・8・3〉

そして父になる

製作：2013年 「そして父になる」制作委員会 上映時間：120分

監督：是枝裕和

脚本：是枝裕和

出演：福山雅治、尾野真千子、リリー・フランキー、真木よう子

その他：カンヌ国際映画祭審査員賞受賞

（あらすじ）

野々宮良多（福山雅治）は一流大学を卒業し、大手の建設会社に勤め、都心の高級マンションに妻のみどり（尾野真千子）と息子の慶多と住み、家族は幸せな日々を送っている。慶多は6歳で来年は小学校の入学である。良多は慶多の優しすぎる性格をもどかしく思っている。

そんなある日、慶多を出産した病院から「重要なお話がある」と呼び出される。みどりは出身地の病院で慶多を生んだのだが、その際、子供の取り違いが起き、実の息子は慶多ではなく、もうひと組の息子、斎木琉晴だというのがのである。DNA鑑定の結果、やはり、実の息子は琉晴で、慶多は

他人の子供だった。「やっぱりそういうことか」とつぶやく良多。「なんで気がつかなかったのだろう。母親なのに」と自分を責めるみどり。ショックを受けた良多とみどりは病院側の紹介でもうひと組の家族、斎木雄大（リリー・フランキー）と妻のゆかり（真木よう子）と、まず親だけで会うことにした。斎木家は群馬県で電気屋を営んでおり、子供は3人いる。病院からは「世間ではこうした場合はほぼ100パーセント血の繋がりを選ぶ。早く結論を出してもらいたい」と畳みかけられ、両家は困惑するばかりである。翌月、両家族だけで子供を連れて出会う。良多は自分の息子の琉晴を

まじまじと見つめ、接点を探る。

年が明けて、それぞれ実の子を家に一泊させることにし、それぞれの家庭に慣れさせようと試みる。しかし、子供の入学式が

終わっても親たちはまだ結論を出せない。

6年間愛してきた他人の子供と、血の繋がった自分の息子。子供を取り換えるのか、それともこのまま育てていくべきか……。

(解説)

監督の是枝裕和はこの映画を作る動機について、『5年前、自分自身が父親になり、そのあと子どもの成長を目のあたりにするうちに、自分と子どもを繋ぐものは何なのかを考えるようになり、『血』か『時間』か、という昔からのテーマに向き合わざるを得なくなった』と書いている。まさに、この永遠のテーマに真正面から向き合った力作である。おそらく、このテーマについて正

解はないのだろう。主人公の良多は悩み、迷い、考え、いつも堂々巡りである。その中で、『父親とは何か』を考えることが大切なのだろう。映画の題名の「そして父になる」の「そして」に深い意味がある。ラストシーンでふた筋の道を歩いてきた良多と慶多が一本の道で出会い、抱き合う場面はその答えを暗示していると思う。

平成27年度第11回鑑賞会

〈鑑賞日：2015・9・14〉

キリマンジャロの雪 Les neiges du Kilimandjaro

製作：2011年 フランス

上映時間：107分

監督：ロベール・ゲディギャン

出演：アリアヌヌ・アスカリッド、ジャン＝ピエール・ダルッサン

(あらすじ)

マルセイユの港の埠頭の一角で、労働組合の委員長のミシェル（J・P・ダルッサン）が籤で引かれた名前を読み上げる。呼ばれた者はリストラ対象者である。ミシェルもその一人である。数日後、ミシェル夫妻の結婚30年を祝うパーティが開かれ、ミシェルがなくした古いコミック雑誌を持

リストラされた社員も含めて多くの人が招待された。孫たちの歌う「キリマンジャロの雪」とともに贈られたサプライズプレゼントは、子供たちが掘金して集めたアフリカ旅行の航空券とお金だった。アフリカ旅行は夫婦の長年の夢だった。義弟ラウルはってきた。

ある日の夜、妹夫婦と4人でカードゲームをしている最中、突然マスクをした二人組の強盗が押し入った。強盗は金品と共に、航空券とコミック雑誌を奪っていった。数日後、ミシェルはバスの中で、奪われたコミック雑誌と同じ物を手にした幼い兄弟と出会う。確かめると奪われた雑誌だった。

ミシェルは兄弟を尾行して家突き止め、警察に連絡した。ミシェルは兄弟の兄が犯人であり、彼は、ミシェルと同じくリストラされた同僚のクリストフだったことを知

る。やがて、クリストフの事情が明らかとなった。兄弟の母親は早くから子供たちを置き去りにして家にいないこと、兄のクリストフが働いて兄弟を養っていること、会社をリストラされて生活が苦しくなってきたことが犯行の原因で、長ければ15年の実刑を免れないと聞いて、夫妻の心が痛む。妻のマリー＝クレールは誰も面倒をみない兄弟の世話をしに密かに通う。ミシェルとマリー＝クレールはそれぞれに幼い兄弟のことを思い、選んだ決断は……。

(解説)

フランスの港町マルセイユを舞台に、どんなに厳しい状況におかれても、人を思いやることの大切さを描いたドラマである。労働組合の委員長であるミシェルが引いた籤でリストラされた青年が幼い兄弟を養うために強盗を働く。刑期は15年、残された兄弟のためにミシェル夫妻はある決断をする。監督ロベール・ゲディガンがフランスの文豪ヴィクトル・ユーゴーの詩『哀れな人々』からアイデアを得た作品で、マ

ルセイユで生まれ、育った自分の生き立ちを生かし、南仏の青い海、明るい太陽を背景にして、社会派的視点を加えて、心温まるヒューマンドラマを作り上げた。

題名の『キリマンジャロの雪』とは、ヘミングウェイの短篇小説からではなく、1966年にフランスで大ヒットしたパスカル・ダネルのシャンソンからとられている。切なく美しいメロディはキリマンジャロへの憧憬をあらわしている。

平成27年度第13回鑑賞会

〈鑑賞日：2015・10・12〉

不毛地帯

制作：1976年 芸苑社(東宝配給) 上映時間：181分
監督：山本薩夫
原作：山崎豊子
脚本：山田信夫
出演：仲代達矢、八千草薫、山形勲、丹波哲郎、小澤栄太郎

(あらすじ)

吉崎正（仲代達矢）は陸軍中佐で大本営参謀。終戦の詔書に対し、参謀総長の命令書が出されていない以上、武装解除に必要がないと解する関東軍に対し、満州に赴き説得に努めたが、侵攻してきたソ連軍に拘束され重労働 25 年の刑を宣告され、シベリアに送られる。そこで 11 年の抑留生活を送ることになる。

帰国後の吉崎は近畿商事社長大門一三（山形勲）に囑託として迎えられた。吉崎のかつての大本営の参謀としての作戦力、組織力を高く評価したからである。総合社の上位にランクされる近畿商事は、総予算一兆円を超すといわれる二次防主力戦闘機選定を巡って、自社の推すラッキード社の F 104、東京商事の推すグランド社のスーパードラゴン F 11、五井物産の推すコンバー社 F 106、丸星商事の推すサウズロップ S 156 を相手に、血みどろの商戦を展開していた。大門は吉崎を同行して渡米した。そ

のスケジュールの中に、ラッキード社 F 104 の基地の見学が含まれていた。基地では自衛隊のテストが行われており、吉崎は防衛部長・川又空将補（丹波哲郎）と出会った。吉崎と川又は陸士、陸大を通じたの親友であり、終戦時の満州で関東軍参謀中佐だった川又は吉崎に一命を救われこともあり、吉崎がシベリアで 11 年間の抑留生活を送っていた間、吉崎家の家族は川又に面倒をみてもらった仲である。吉崎と川又の再会は大門社長が仕組んだものだった。それを機に吉崎は否応なく、次期戦闘機選定の商戦の最前線に立たされた。機種 of 最終決定は総理、副総理、大蔵、外務、通産の各大臣、防衛庁長官などで構成する国防会議にあるため、吉崎は照準を政界工作に絞り、大本営時代に親交のあった久松経企庁長官に密かに会った……。

(解説)

山崎豊子の「不毛地帯」は「サンデー毎日」に 1973 年 6 月～78 年 8 月と 5 年余にわたって連載された。本映画は「サンデー毎日」連載中に企画され、映画化されたものだけに本映画は、原作の前半となる二次防の戦闘機選定をめぐる商戦に絞って映画化している。山本薩夫監督は当時のロッキード事件を題材に取り込みながら、なりふ

りかまわぬ商社間の暗躍と利権をめぐる政治家たちの画策を描き、骨太の社会派ドラマを作り上げた。しかし、同じ山崎豊子原作の『華麗なる一族』『白い巨塔』が完結したドラマなのに対し、『不毛地帯』は原作の半分の映画化であるため、主人公吉崎正のその後の生き方が気にかかる。

「浮雲俳句会」抄録 No.3 1

代表 北野 清市

《よい句・残る句》(その4)

4 現代を広く詠む

わが浮雲俳句会の目標は、地域にスタンスを置き、伝統俳句を踏まえ、現代を広く詠むと設定しております。

ところが、「現代を広く詠む」というキャッチフレーズは、観念的・抽象的で、具体的に体得して頂くため、先達の例と自選句を掲げて実感して頂きます。

【先達の例】

チチボボと鼓打たうよ花月夜 たかし

能・宝生流の名家の出身。だが俳諧を志し、終世俳人として活躍。〈チチボボ〉の擬音に“能”の血が流れ、現代が窺えます。

豹涼し肩が歩めば背がつづき 徹

動物園での句。檻の中の〈豹〉を見ていると、立ち上がって歩き始めた。その精悍さが的確に詠まれています。即物具象に徹した写生句。しかも、現代を予感する秀作です。

十二月みんなが通る自動ドア 冨

歳末になって人が公共施設に出入りする光景。〈自動ドア〉が、行き渡る以前はドアが勝手に開いて、吃驚したり、開くものと思っていたのに、開かなくてドアにぶつかったりした期間があった。しかし、現在はそのようなことはありません。歳末のいそがしきと、立ち止まる必要のない敏感な〈自動ドア〉。現代を広く詠った秀作です。

【自選句】

サーファーの乗る北斎の波頭

葛飾北斎の『富嶽三十六景』の「神奈川沖図」が、頭に過ぎり、その波頭と目のサーファーが連動して出来た句。現代の若者のマリンスポーツに興じる姿が、迫ってきそうです。

星今宵七十階のカプチーノ

横浜のランドマークタワー〈七十階〉で一杯の〈カプチーノ〉。丁度その宵は、七夕で牽牛と織女がロマンを語り合ったのです。

いずれにしても、『歳時記』の各季の項目別分類の中でも、時候・天文・地理の三項目にポイントを置いて句作して欲しいのです。これが、「現代を広く詠む」方法の一つの秘訣ではないでしょうか。

(以下次号の《よい句・残る句》(その5)へ続く)

9 1 回例会 平成 2 7 年 7 月 2 6 日

[秀作]

天賞

未来地図夏のリゾート西之島 一馬

西之島の未来図。〈西之島〉は小笠原諸島父島の島嶼。平成 25 年 11 月の噴火により新島が誕生。この新島が一カ月後、500m 北西の元の「西之島」と合体。その後も拡大を続け目下、新島合体後約 10 倍の島嶼となっている。因みに東西は 1.5 km・南北 1.7 km の逆お椀形になっているこの西之島、近未来には関東のリゾート地となり、〈未来地図〉にも〈リゾート〉地〈西之島〉と表記されるというのである。未来の西之島を描いた想像力に感服した。

にせよ〈レンガ倉庫〉の日影と〈大暑〉をピタリ符号させたリアルな囁目吟である。

人賞

竹節虫の背をやんはり晩夏光 国眼

珍しい虫と晩夏のコラボレーション。〈竹節虫・ななふし〉は体長 8 cm ほどで羽根がなく、腹部に 7 つの節を持った枝のような虫。特に褐色で小枝のような珍しい擬態が特徴である。

この珍しい虫の発見の喜びとともに〈晩夏光〉ですら、その〈背をやんはり〉と包み込んでいとしむ様がよく伝わってくる。

地賞

大暑来ぬレンガ倉庫の深き影 勇平

大暑における写生句。〈大暑〉は二十四節季の一つで夏の暑さの最高に達する時期。〈レンガ倉庫=横浜赤レンガ倉庫〉。正式名称は新港埠頭保税倉庫=2号館は明治 44 年・1号館は大正 2 年に竣工。保税倉庫としての役割は平成元年に終了した。その後平成 14 年に 1号館は展示スペースなどの文化施設、2号館は商業施設となり、しかも付近一帯は広場と公園に備える赤レンガパークとして整備され横浜みなとみらい 21 地区の代表的観光地となった。いずれ

[特選]

地の鼓動夏の海噴く西之島	和女
炎屋下黙々見張る遮断棒	一祝
赤錆びし滞船の影晩夏光	とも女
土用入り関西弁に途切れなし	二祥
サラダの日サッカー女子の日焼け顔	一幸
子らはしゃぐ赤青黄のかき氷	好童
夕焼け雲病床に知る夫の愛	重九
帆檣の林に沈む西日かな	十九
子に添ひて昔話や遠花火	祥代

9 2 回例会 平成 2 7 年 8 月 3 0 日

[秀作]

天賞

大銀河風神雷神駆け巡る 三洋

宇宙俳句。スケールの大きさとともに臨場感に溢れている。特に今年の夏の暑さは格別で各地で雷(かみなり)=〈風神雷神〉が多発。竜巻までが方々で発生して大きな被害をもたらした。

〈銀河〉は、太陽系を含む恒星の大集団。「天の川」とも云われ、夜空に帯状に見られる数億の集団である。一年中見られるが春は低く地平に浴い、冬は高いが光が弱い。夏から秋にかけておきあがり銀の砂のように美しい。

この〈大銀河〉を〈風神雷神〉が駆け巡っているのだ。

地賞

槍ヶ岳眺めつ踏むや花野径 一幸

山岳俳句。恐らく常念岳(2,857mの常念山脈の主峰)からの眺望であろう。正面に穂高連峰。北東方向に〈槍ヶ岳(3,180m日本で5番目の高さ)〉が文字通り槍のように山頂を尖らせているのだ。この大景を常念岳の〈花野径〉から眺めている。〈花野径〉からの日本アルプスの雄大な眺望が目前に浮かぶ。

人賞

夢二の忌化粧直しに立つ女 一馬
画家の忌日俳句。〈竹久夢二〉は、岡山で明治17年に生まれた画家。数多くの美人画を残しており、その叙情的な作品は「夢二式美人」と呼ばれている。なお夢二は、絵画以外においても木版画や絵本の挿絵は勿論詩集や小唄集など数多く残している。

掲句では、中7及び下5の全てを使い、〈化粧直しに立つ女〉と表記しているが、この措辞が素晴らしく、〈夢二〉の描く夢見るような瞳と、かぼそい姿態の「夢二式美人」が現れるのである。

[特選]

箒の先ぬけがら一つ時化の朝 勝美
盆の月あげたる低き安房の山 岩介
秋風や思慮を重ねて手術済む 一税
踊去る胡弓と三味の音残し とも女
平和の日七十回目の原爆忌 好童
白桃や模様の揃ふガラス皿 勇平
裏木戸に楚々と立ちみる白芙蓉 国眼
電柱の陰に身を寄す残暑かな 重九
たゆまざる記憶の轍原爆忌 十九

93回例会 平成27年9月27日

[秀作]

天賞

秋草を皿に盛りをり呉須の筆 和女
陶芸俳句。〈呉須・ごす〉は呉須焼きの略。青藍色の中国伝統の磁器。「素焼き」は釉薬（うわぐすり）をかけず温度の低い火で焼いた磁器。この「素焼き」の段階で〈皿〉に〈秋草〉を描いて釉薬をかけ本焼きにまわすのである。多分、秋の七草を丹念に筆で描きその上に釉薬をかけて青藍色の〈呉須〉焼きを作り上げたのであろう。職人も一目を置く自作自演の大作の完成時の喜びは格別であったろう。

人賞

赤とんぼ止まれこの指母の指 祥代
母親の愛情溢れる叙情詩。〈赤とんぼ〉は秋に見られる小型の蜻蛉。雄は赤色だが雌は黄褐色。また〈赤とんぼ〉は夏、山にいて秋になると平地に群れをなして出現する。作者の住まいの周辺でも風のない秋晴れの日には、40~50匹位が群れをなしてホバリングする。人の周囲でも、すぐ近くで空中に静止する。このような状態のなか作者は〈止まれこの指〉〈母の指〉と「少しは指に止まって休みなさい」と…。母親の子に対する愛情のごとく、いたわりの〈母の指〉を差し出すのである。

地賞

初島の磯の飛沫や根釣人 好童
海釣俳句。〈初島〉は、相模灘に浮かぶ人口200人の島、面積0.43km²、周囲4km。最高地点51mで熱海から10km離れ定期航路が就航中である。〈初島〉と云えば鎌倉時代の源実朝の次の和歌を思い出す。
箱根路をわが越えくれば伊豆の海や
沖の小島に波の寄る見ゆ
掲句は、この初島の磯釣りの様子を見事に詠いあげている。〈磯の飛沫〉の中〈根釣人〉が晩秋の日差しを浴びながら一心不乱に磯釣りにいそしんでいるのである。

[特選]

初島の軒にずらりと鯨の竿 勇平
初島の空ゆく雁に茜射す 一紀
稲妻に半跏思惟像指光る 一馬
一声の瀬音に透る黄鶴鴿 十九
ベランダを独り占めして秋簾 一幸
しがみつくコアラの如き樞檀かな とも女
曼珠沙華赤き紅ひく女将かな 重九
障子貼る見様見真似の餓鬼大将 国眼
舟留り月光浴びて日の出待つ 一税

「ふれあいの道歩こう会」実施概要 NO.11

代表 小俣 悦男

独自コース 29 番「日和田山と巾着田」 (通算 111 回)

実施日：平成 27 年 9 月 18 日(金) 天候：曇り一時小雨

コース等：歩行時間 約 4 時間 歩行距離 約 11km 参加者：13 名

コース所在地：埼玉県日高市

交通：往路 横浜駅 6:26 発 (湘南新宿ライン) (山手線利用も)⇒池袋駅 7:03 分着 7:27 発⇒飯能駅 8:20 着。8:22 発 (西武秩父線) ⇒武蔵横手駅 8:35 着

帰路 高麗駅 15:24 発⇒飯能駅乗換(元町・中華街行き) ⇒横浜駅 17:12 着

コースタイム：武蔵横手駅前準備体操 8:50 分スタート⇒9:30 五常の滝⇒10:20 北向地藏⇒11:05 物見山⇒駒高 11:30~12:00(昼食)⇒日和田山 12:40⇒金毘羅神宮 12:55⇒(男坂、女坂、二組に別れて下山)合流点 13:20(公園でオレンジタイム)⇒巾着田 14:10 着(巾着田の曼珠沙華を堪能して川原で休憩)

曼珠沙華いざなわれてや巾着田 一税

ご存知ですか！

五常の滝：南北朝時代高麗一族の武者がこの滝で身を清め戦場へ向かったという伝説が残る。五常とは儒教の教えで人として常に守るべき 5 つの徳(仁・義・礼・智・信)のこと。岩場に不動尊が祀られており、落差 12m 位の小振りな滝。

曼珠沙華の巾着田：河川の増水などで流れてきた漂流物の中に混じってきた球根が漂着し、根付いたといわれていて、秋の彼岸には 500 万本の曼珠沙華が赤い絨毯を敷きつめたように咲く。高麗川が蛇行した形が「きんちゃく」の形に似ているところから巾着田の名がついた。



五常の滝



巾着田の曼珠沙華

カラーでないのが残念。HP をご覧ください

独自コース 30 番「堂平山」 (通算 112 回)

実施日：平成 27 年 10 月 15 日(木) 天候：晴れ

コース等：歩行時間 約 5 時間 歩行距離 約 9km 参加者：19 名

コース所在地：埼玉県比企郡小川町、秩父郡東秩父村など

交通：往路：JR 横浜駅(湘南新宿ライン) 6:48 発⇒池袋駅 7:27 着 東武東上線池袋駅 7:45 発⇒小川町駅 9:01 着。バス：小川町駅 9:27 発⇒皆谷 9:54 着(準備体操)

帰路：バス：白石車庫 16:26 発⇒小川町駅 17:00 着 東上線小川町駅 17:10 発⇒和光市駅 18:04 着(元町・中華街行へ乗り換え) 18:09 発⇒横浜駅 19:25 着

コースタイム：皆谷 10:10 発⇒笠山 12:00 着(昼食) 12:40 発⇒堂平山 13:40 着(オレンジタイム) 14:00 発⇒剣ヶ峰 14:25 着⇒白石峠 14:45 着⇒白石車庫 15:40 着。

ご存知ですか ①外秩父七峰縦走ハイキングコース：東武東上線小川駅をスタートに官ノ倉山(344m)～笠山(837m)～堂平山(875.8m)～剣ヶ峰(876m)～大霧山(766.6m)～皇鈴山(679m)～登谷山(668m)七峰の秩父の山々を馬蹄形に廻り東武寄居駅に至る 42.195 kmの縦走コース。毎年春には東武鉄道主催の外秩父七峰縦走コース大会が行われており、今春で 30 回を数えた。ふれあいの道歩こう会は今回のコース取りを七峰のうち、笠山(837m)～堂平山(875.8m)～剣ヶ峰(876m)の標高 800m 以上の三峰とし縦走した。

②星と緑の創造センター：施設の老朽化した国立天文台堂平観測所を埼玉県比企郡ときがわ町が国からの譲渡を受け、ログハウス、バンガローなどの施設を整備して開設した。一等三角点のある標高 875.8mの堂平山の山頂にある。

秋晴や秩父の山に癒されし一税



旧国立天文台 堂平観測所



秩父の山々を背景に記念写真

掲載記事並びにコースに関わるお問い合わせは下記にお願いいたします。

小俣 悦男 メールアドレス：e-omata@jcom.zaq.ne.jp なお“わ”の会の HP「ふれあいの道独自コース」には定例会ごとに多数の写真がカラーで掲載されております。

「安政期の三大地震とロシアの日本近海」

代表 真田 雅行

地震大国日本、江戸時代（慶長～安政）約260年間でマグニチュード（M）6以上の地震は全国で48回（ほぼ5年に1回）に及ぶが、中でもペリー来航（嘉永6、1853）の悪夢が覚めやらぬ安政元～2年（1854～55）のわずか1年以内に東海大地震、南海大地震そして江戸直下型大地震の三つが続け様に発生した。

1. 安政元年（嘉永7年）11月4日（1854年12月23日）五ツ半頃（午前9：20頃）関東から関西にかけてM8.4（震度7）の東海大地震が起こり、各地で多くの家屋等が倒壊し死傷者が多数出たが、特に津波による被害が甚大であった。この中、伊豆半島先端の下田港では大津波が内陸へ4kmも押し寄せ、町全体の1千軒が忽ち押し流され、6百人余が生死不明、湾内滞船36艘が内陸に押し上げられた。この時の下田港における様子を描いたのが図1である。この地震発生の前日にロシアの海軍軍人プチャーチンが軍艦「ディアナ号」で伊豆下田に来て和親条約交渉を始めたばかりであった。彼は第三回使節として二度にわたり長崎に来たが、この二度目の来日による条約交渉がペリーの来航よりわずか一ヶ月遅れてペリーに先を越されたため、下田に回航して今回の地震に遭い、大破したディアナ号も修理のため戸田（へだ）港へ航行中沈没するという事故に遭ったが、漸く和親条約締結にこぎつけ目的の箱館開港に成功した。ロシアはこれまでシベリアの食料不足問題解決のためアメリカよりも早く日本開港を求め、盛んに蝦夷に接近してきていた。モスクワからシベリア大陸を横断してウラジオストクに至る延長9297kmのシベリア鉄道は帝政ロシアの東アジアへの進出という戦略的意図のもとに1891年に着工、全線開通したのは1916年（大正5）である。従って江戸時代にはまだ存在せず、当時は貿易による日本からの食料確保がロシアの最優先課題であり、ロシアが南下政策、植民地政策により強圧的になってくるのはシベリア鉄道開通後であり、それまで日本の多くの漂流民を厚く保護したのも貿易によるシベ

リアの食料確保に目的があった。アメリカより先に日本に来て開港を求めたのは第一回使節ラクスマン（根室 1792年）であり、幕府から長崎へ迂回しての交渉を強制されたが、その際幕府は長崎入港による交渉の信牌（許可書）を与えており、これに基き第二回使節レザノフも長崎に来て日本の開港を重ねて要求した。が、幕府は約束を破り、強硬な鎖国政策（松平定信）により交渉が失敗したため、約束違反に腹を立てたレザノフが報復として部下に樺太やエトロフ島の日本会所を襲撃させた。これに過剰反応した日本が、その後ロシア軍艦のゴローニン艦長を逮捕、人質に捕ったりして両国関係が嫌悪化したが、最終的には高田屋嘉兵衛との人質交換で和解した。（筆頭老中が商売・貿易重視の田沼意次から農業（米）重視の松平定信に代わり、厳しい鎖国政策が踏襲されたのはこの頃＝寛政年間である。）

2. この東海大地震からわずか32時間後の安政元年（嘉永7年）11月5日（1854年12月24日）、今度は紀伊半島から四国沖にかけて同規模（M8.4、震度6）の南海大地震が発生、大坂では津波が木津川、安治川を逆流し沿岸一帯大津波で甚大な被害を出した。紀伊半島の先端の串本では津波の波高15mに達したという。正に太平洋断層による連鎖地震だが、2日続きで広い範囲に地震が起こったことになり、どちらの地震による被害が区別出来ないものも多いという。幕府（形式上は朝廷）はこれら大地震による被害や天災・人災を避け、庶民の安寧を願って11月27日に年号を「嘉永」から「安政」に変更したが、結果としてはこの安政年間は翌年の江戸直下型大地震、大津波、コレラの大流行、暗殺、インフルエンザ、更には大老井伊直弼の「安政の大獄」などにより人災・天災が絶えず、年号変更の効果はなく天は味方しなかった。

3. それから1年後の安政2年10月2日（1855年11月11日）午後10時頃、今度は江戸で震源が荒川河口付近の直下型地震が発生した。

M6.9で前記のM8.4より小さかったが、震度はほぼ6、軟弱地盤の下町低地に被害が集中、特に深川・本所・下谷・浅草がひどかったが、江戸各地でも家屋・武家屋敷・土蔵・寺社の倒壊、火災の発生と多くの死者・怪我人が出た。図2に記した『破窓の記』はこの直後の江戸地震の被災地現場を細かく視察して書かれた32ページにわたる、いわばルポルタージュの如き書（国立公文書館蔵）であるが、現場視察だけに迫力がある。この地震で水戸藩の筆頭家老で尊皇思想の普及に大功のあった藤田東湖（小石川の江戸藩邸滞在）が屋敷倒壊の下敷きとなり圧死した。そのほか会津藩邸を始め多くの武家屋敷が大被害を蒙った。一方神奈川宿の医師佐藤汶栖（ぶんせい）の『金川日記』によると、神奈川宿より仲之町、新町に至り大破、居住不能、16～7軒倒壊、仲木戸横丁13軒、二ツ家14.5軒倒壊、台町下より新町まで土蔵は残らず倒れ、青木町遠州屋3人死亡、

（参考）

1854年は日本年号では嘉永6年の終りから嘉永7年を経て安政元年に及んでいるためわかりにくい。原因は嘉永7年11月27日に「安政」と改元したことから、安政元年はわずか1カ月余で安政2年になった。上記を来航順に整理すれば①ペリー初来航（嘉永6年浦賀）→1か月後

裏の山崩れ、土蔵を押し倒し、東三河屋の娘も死去、其の外怪我人5～7人、権現山が崩れ落ち、宗弘寺前より洲崎宮の手前まで崩れ落ちた。この安政2年10月2日（1855年11月11日）の江戸直下型地震の余波は海防にも大きな影響を及ぼした。幕府は近海に出没する異国船に備えるため、特に東京湾周辺の海防強化策として、「古来の名器」や「時報の鐘」を除き、諸国の寺院の梵鐘を供出させ大砲等を铸造せんとして、調査の上供出計画の実施を指示した。（安政3年1月 永島家文書）そんな中、この直下型大地震発生により大きな被害が出て、それどころではなくなり、供出計画は頓挫し、梵鐘供出のみならず大砲铸造も延期、自然消滅となった。寺院側も表面上は調査に協力はしたが、不承不承であり、結果として梵鐘供出による大砲铸造は水戸藩などのごく一部に留まったようである

②プチャーチン初来航（長崎）→数か月後③プチャーチン再来航（長崎）→④ペリー再来航（嘉永7年1月 江戸湾小柴）→⑤プチャーチン下田回航（嘉永7年10月3日交渉開始、翌日江戸直下型地震）→⑥安政元年12月（1855年）日露和親条約調印。

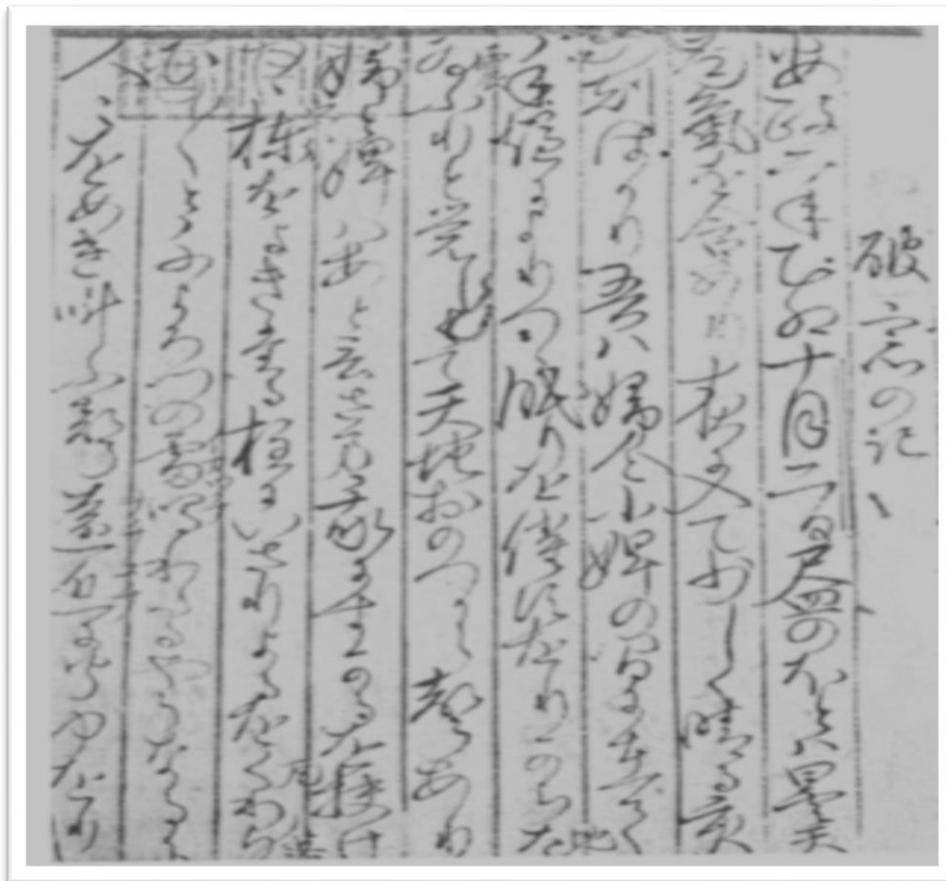


モジャエスキーの絵図、津波来襲前の下田港【ロシア海軍博物館蔵】



モジャエスキーの絵図、津波来襲前時の下田港【ロシア海軍博物館蔵】

図1 安政元年（1854）東海大地震時の伊豆下田港



破窓の記

〔国立公文書館蔵〕

安政二年乙卯十月二十日昼のほとハ曇大
 雨雲を含めり、夜に入て少しく晴る、亥
 の刻はかり、高ハ婦人と小婢の間に在て
 手燭によりつゝ、服りを催すをりから、な
 めふり（地震）と覺しくて天地おのつから声あり、
 婦と婢ハ、あとおさま我にすかるを扶け
 つゝ棟をよきたる柱にいさりよるを、かわら
 ひしくともよるつの雷鳴わたるやうなるに、
 人々をめき叫ぶ声遠近（ワチコチ）に聞ゆ、をりし
 も、階に積たる書櫃又居間の欄より墜
 具とも顛れ（クツレ）おち、壁亦墜子などハ浪のうつやう
 に見え、天井欄則動きひじめき、女どもへたゞに
 酒へいるはかりなりしかと、ほとなく揺りやこし
 かハ、遠近に人声さうそき聞ゆ、女らもやうく、
 心ちつきしかハ、やをら老の身をおこし震
 戸引あけて、や上人々火あやうし火所（ホド）に
 心せよと、しはかれ声あけつゝ、提燈ともして
 外面を見やれハ、我あつかる所の連屋（十方ヤ）人種
 の擁擠崩れて落たれハ、あきれ（呆れ）なから身う
 ちに疵つきしものハなきや、あまりにあわてゝ（同章）

図2 江戸直下型地震を伝える 『破窓の記』部分（国立公文書館蔵）

今回のテーマは、「選択」です。パソコンを使って文章を作成したり、画像を編集したり、ファイルをコピーしたり、いろんな操作をしますが、このとき必ず「選択」の操作をしています。パソコンに向かって操作をするとき、マウスで画面のある箇所をクリックし、必要ならある範囲をドラッグして選択します。この操作で、パソコンに編集対象を教えるのです。これを正しく行わないとこの後の編集作業がトンチンカンなものになります。

WORD での文章の編集

下の3行の文章の2行目に「文小」とあります。これは「文章」の間違いです。

今回のテーマは、「選択」です。パソコンを使って**文小**を作成したり、画像を編集したり、ファイルをコピーしたり、いろんな操作をし

これを修正するには、まず「文小」の後ろをクリックしてマウスカーソルを立てます。これが文章での編集箇所の「選択」です。次に「小」を“Back Space”キーを押して削除し、「章」と入力します。この程度の操作は、「選択」を意識せずに実行していますが、「選択」する場所を間違えると正しく修正できません。

WORD での画像の編集

下の画面は、文章の中に画像を挿入したものです。この画像を移動したり、大きさを変えることを編集すると言います。編集するには、まず、その画像をクリックして「選択」します。

ビデオを使うと、伝
明確に表現でき
ンビデオ]をクリッ
きたいビデオを、そ
込みコードの形式
るようになります。
かして、文書に最
オンラインで検索す
す。Word に用意されているヘッダー、フッター、表紙、テ



えたい内容を
ます。[オンライ
クすると、追加
れに応じた埋め
で貼り付けでき
キーワードを入
適なビデオをオ
ンラインで検索す
ることもできま

選択マークが現れて、「図形のスタイル」、「配置」等の編集作業を実行できます。



ビデオを使うと、伝
明確に表現でき
ンビデオ]をクリッ
きたいビデオを、そ
込みコードの形式
るようになります。
かして、文書に最
オンラインで検索す
す。Word に用意されているヘッダー、フッター、表紙、テ

EXCEL でのセルの選択

下の図では、C3セルをクリックして、セルを「選択」しています。この後このセルの内容を編集します。

	A	B	C	D	E
1					単位:千円
2	営業所名	4月	5月	6月	合計
3	北海道営業所	1,000	1,050	900	2,950
4	東北営業所	700	850	1,000	2,550
5	北陸営業所	900	1,000	700	2,600
6	関東営業所	3,100	2,850	2,100	8,050
7	東海営業所	2,500	1,850	1,900	6,250
8	関西営業所	2,300	1,950	2,600	6,850
9	中国営業所	1,600	1,250	950	3,800
10	四国営業所	900	1,000	700	2,600
11	九州営業所	1,800	1,200	1,050	4,050
12	合計	14,800	13,000	11,900	39,700

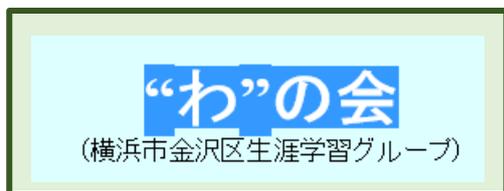
EXCEL でのセルの入力

下の図ではB4セルの中をクリックしてセル内を「選択」しています。カーソルがセル内にあり、数値や関数を入力することができます。

	A	B	C	D	E
1					単位:千円
2	営業所名	4月	5月	6月	合計
3	北海道営業所	1,000	1,050	900	2,950
4	東北営業所		850	1,000	1,850
5	北陸営業所	900	1,000	700	2,600
6	関東営業所	3,100	2,850	2,100	8,050
7	東海営業所	2,500	1,850	1,900	6,250
8	関西営業所	2,300	1,950	2,600	6,850
9	中国営業所	1,600	1,250	950	3,800
10	四国営業所	900	1,000	700	2,600
11	九州営業所	1,800	1,200	1,050	4,050
12	合計	14,100	13,000	11,900	39,000

ブラウザでの情報の取り込み

下の図は、「わ」の会ホームページで文字列「“わ”の会」を「選択」したところです。この部分の左端をクリックして必要箇所までドラッグしました。次に選択した部分をコピー（“Ctrl” + “C”）して、WORD 等に貼り付けることができます。



サイト情報に画像や表が含まれている場合、画像等を含め必要部分をドラッグして、「選択」すること

で情報の取り込みができます。下の図は、「変わりゆく横浜・金沢の風景」のトップページから画像を含む部分を選択した状況を示します。その後コピー&ペーストでWORD にきれいな画像を貼り付けることができます。

最後に

「選択」は、パソコン操作に当たってのユーザーインターフェースの第1ステップです。自分が何をしたいかをパソコンに教える操作です。的確な判断でその後の操作での混乱を避けることができます。



行事予定

2015年12月～2016年2月の予定

注：表中の「CC」は、「地区センター」の略

	12月	1月	2月
学習会	なし	なし	2月13日(土) 能見台CC 9:30～12:00 一元寇と金沢— 歴史研究家 盛本 昌広 氏
寺社を巡る会	12月3日(木) 集合：高田駅 10:00 地区：高田、日吉 訪問先：興禅寺、高田天満、塩谷寺、真福寺、下田神社、駒林神社、金蔵寺	1月7日(木) 集合：小机駅 10:00 地区：三会寺 訪問先：三会寺、烏山八幡宮、將軍地蔵、貴雲寺、岸根公園、篠原池	2月4日(木) テーマ：DVD鑑賞 百寺巡礼 集合：場所・時間未定
古文書を読む会	12月10日(木) 金沢公会堂 10:00～12:00 永嶋家文書 12月24日(木) 金沢公会堂 10:00～12:00 越後人北前船漂流談	1月14日(木) 金沢公会堂 10:00～12:00 赤井村石井家文書 1月28日(木) 金沢公会堂 10:00～12:00 奥の細道	2月11日(木) 金沢公会堂 10:00～12:00 赤井村石井家文書 2月25日(木) 金沢公会堂 10:00～12:00 奥の細道
ふれあいの道歩こう会	12月10日(木)(予備日11日) 独自コース32 紅葉の六国峠 横浜市&鎌倉市	1月21日(木)(予備日22日) 独自コース33 三浦富士と武山 神奈川県横須賀市	2月18日(木)(予備日19日) 独自コース34 富山(ひだまり山行) 千葉県南房総市岩井
懐かしの映画を観る会	12月14日(月) 12:00 金沢cc アラバマ物語 (米) 12月28日(月) 12:30 金沢cc 007/ドクター・ノオ (英)	1月11日(月) 12:00 金沢cc キャバレー (米) 1月25日(月) 12:00 金沢cc グリーンマイル (米)	2月8日(月) 12:00 金沢cc 太秦ライムライト (日) エデンの東 (米) 2月22日(月) 12:00 金沢cc 素晴らしき哉、人生 (米)
浮雲俳句会	12月27日(日) 9:30～ 金沢CC 第95回例会 テーマ 松島・人事	1月24日(日) 9:30～ 金沢CC 第96回例会 テーマ 佐渡ヶ島・宗教	2月28日(日) 9:30～ 金沢CC 第97回例会 テーマ 淡路島・動物
パソコンを使いこなす会	12月8日(火) 金沢CC WORD基礎講座 —文書の管理— 12月15日(火) 金沢CC WORD基礎講座 —文書の共有— 9:30～12:00	1月12日(火) 金沢CC WORD基礎講座 —ページ背景・ヘッド・フッター— 1月19日(火) 金沢CC WORD基礎講座 —ページレイアウト— 9:30～12:00	2月9日(火) 金沢CC WORD基礎講座 —差込み印刷— 2月16日(火) 金沢CC メール復習講座 —画像の送信— 9:30～12:00

連絡先:

- ・学習会 785-1639(今井)
- ・寺社を巡る会 046-866-3339(吉田寿)
- ・古文書を読む会 784-4900(真田)
- ・懐かしの映画を観る会 701-1606(佐藤)
- ・浮雲俳句会 774-3878(北野)
- ・パソコンを使いこなす会 701-9775(林)

編集後記

最近米沢に立ち寄った際、米沢市上杉博物館に入った。常設展の他に特別展「米沢藩医家の系譜」が開催されていて、目立つところに国の重要文化財に指定されている7世紀に著わされた中国の医学書「宋版備急千金要方」33冊が展示されていた。朱色の「米澤蔵書」と並んでなんと黒色の「金澤文庫」の蔵書印が押しあてあり、説明にも金沢文庫のことが書かれていた。米沢に到来した経緯は不詳とのこと。8月の学習会で金澤文庫本や蔵書印の話があったので感慨一入でした。会員の皆さん学習会概要を読んでくれていますか。「中先代の乱」など講演よりも分かりやすいですよ。

(I,A)

発行日	平成27(2015)年11月14日
発行月	4回(2,5,8,11月)
発行者	金沢区生涯学習“わ”の会
編集長	鈴木 秀幸
編集委員	貝田 誠作 田中 徳明 伊達 一雄 相川 勲 柴崎 幸治 金久保常二 山腰策次郎 金間 誠一